サ　ロ　ン

## ハッタリのススメ

我々は土木技師である。偉いギシ，プロのギシにはサーの称号を与えても良い。これを「サギシ」という。サギシはハッタリで生きている。世にはびこる詐欺師は悪いヤツであるが，土木のサギシはチョイと違う。十分な経験を重ねた人間は，少々のハッタリを言ったところで大きな間違いを犯さない。土木構造物の設計計算の多くは，単純化したモデルで理論計算を行う。ところが，理論計算の多くは，かなり大胆な仮定を伴っている。むしろ理論通りの挙動をしたときには，どこかおかしいと思うことすらある。どうすれば良いか，と悩む場面に遭遇したとき，サギシが自信タップリにコレダ！と答えてくれれば，ホッとする。

「4ｍの厚さの泥炭層に2ｍの盛土を行うと1ｍの沈下が生じますので…」と，自信タップリに答えられたら，誰だって信用する。万が一ハッタリが外れたとしても，サギシは慌てない。一つの現象の説明には，幾つかの理論がかならずある。言い訳はいくらでもあるものだ。だいたい，世の中に絶対なんて言うものは絶対に無い。だからもっと楽天家になろう。

大学ではいろんな理論を教える。現場でたたき上げた人は経験を大事にし，理論をせせら笑う。これを「不信」という。これでは会計検査に対応できない。理論のみを大事にする人もいる。これを「盲信」という。こんな人は予測通りにならないと現場が間違っていると言う。何かにつけて自信のない人はとくに理論を信ずる。これを「過信」という。この人は事が旨く運ばないとき，すべての責任を理論に被せる。中途半端な人も時には理論を信ずる。これを「誤信」という。前後の見境が無いプッツン状態だから，これが最も危険である。

サギシは理論の限界をわきまえている。同時に経験の曖昧さも知っている。サギシはカラオケがうまい。カラオケ三原則。立って歌う（正しい姿勢），その気になる（歌手のつもりで自信タップリ），まわりを気にしない。加えて自分の得意とするジャンルをよくわきまえていて，かつレパートリーを着実に増やす努力をしている。常に前向きの姿勢で勉強しているのだ。だいたい，カラオケをやらない人はネクラが多い。

さあ，今日からカラオケ歌ってサギシになろう。ハッタリを言えるプロになろう。

（記　能登繁幸）